

神奈川県立中原支援学校における学校運営協議会開催結果

○ 本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

会議等名称	令和5年度神奈川県立中原支援学校 第1回学校運営協議会		
開催日時	令和5年6月26日(月) 9:40~11:30		
開催場所	図書会議室		
出席者	学校運営協議会委員9名、事務局11名		
次回開催予定日	令和5年11月29日(水) 9:30~11:30		
問合せ先	神奈川県立中原支援学校 副校長 坂戸 博子 電話(044)755-5018		
下欄に掲載するもの	・議事録・議事概要	公開を概要とした理由	
会議等経過	<p>○開会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 校長挨拶 2 会長選出 3 会長挨拶 4 新委員紹介 5 学校運営の報告 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校の教育計画に関する事 (2) 教育課程の編成に関する事 (3) 教育組織の編成に関する事 (4) 学校施設及び設備等の管理・整備に関する事 6 学校見学 7 切れ目ない支援部会報告 8 協議 <p>・地域の方々の参加も含め、取り組みが素晴らしいと感じた。周辺施設として、今後も体育館やプールの利用や手帳の再判定など連携をとっていけたらよい。</p> <p>・「主体的・対話的で深い学び」については、「チョーク&トーク」のやり方ではなく、うまい教員は語り掛けるように授業を行っていると感じ、教育課程説明会で話題に出ている。肢体不自由のある生徒にも、自立に向けた力をつけるため、たくさん語りかけて子どもと対話をするのが大切であると思う。</p> <p>・「くん」と「さん」の呼び分けで傷つくケースがあったため、「さん」付けで統一したということもあった。人権という視点では、ジェンダーを固定するようなことをしないことはとても大切である。また「がんばれ」という声かけがストレスになることもある。「がんばってるね」という肯定的な声かけをするとよい。</p> <p>・小学3年生のときの先生が「さん」付けで呼んでおり、当時は違和感があったが今は当たり前の中になった。子どもにも、「さん付け」をする理由を話してあげるとよいと思う。</p> <p>・呼び捨ての後に続く言葉は荒くなる場合がある。子どもへの関わり意識の持ち方につながる。</p>		

- ・就職を目指す生徒は、卒業生から話を聞く機会があるとよい。働くことをイメージできる。
- ・高等部の校内実習で受注している箱は、東南アジアに輸出して自動車整備工場を使うものである。説明してあげるとイメージができてよいと思う。→事後学習で説明したり、社会の学習にも繋げていくなどしたい。
- ・学校に関わっていく気持ちをどのようにしたら保護者に作っていただけるか、先生、保護者、子どもがよいサイクルで学校生活を送れるか、考えていきたい。
- ・関心を持つこと、時間の制限がある中で、どのように協力をして関わっていただけるか工夫が必要である。
- ・今回初めて見学させてもらったが、児童生徒に対して教員の人数が多く、盛り上げようと楽しい雰囲気で行われていた。「チーム中原」で、一丸となって楽しい学校を作っていると感じた。自治会の回覧で行事予定が回ってくるが、外部が参加していいのかわからず、一歩踏み込めない。今日は何ができるか考える機会となった。何かできることがあれば声をかけてほしい。
- ・行事予定等については、わかりやすく表記して発行したい。一緒にできることについても具体的に相談したい
- ・周辺にある施設として、今後、行事が活発になる中で交流を進めていけたらいい。まずは情報共有をしたい。年度末の施設の事業発表の際に、学校の研究を発表してもらったこともある。
- ・繋がることから始めていきたい。それぞれの立場でできることを考え、win-winの関係を作っていけるとよいと思う。

○閉会

- ・校長挨拶